

緑化センター みにがいど No.17

緑化センターにツル？ 実はアオサギ

アオサギは日本の野鳥の中では最大級の体型をした種です。大きさは全長約90cm、翼を開くと約160cmもあります。海岸や河口、川岸の高い木の上など、よく目立つところでも平然と止まっています。



アオサギはその大きさと姿から、よく「ツル」とまちがえられてニュースになることがあります。ツルの仲間とサギの仲間は、その大きさや姿でなく行動のパターンで見分けることができます。ツルは首と脚を伸ばした状態で飛行するのに対して、サギの仲間は脚は伸ばしているが長い首はS字形に縮めた形で飛行するのが特徴です。

アオサギ サギ科

アオサギの分布域は広く、シベリヤのアムール川の上流から中国大陸、ベトナム、カンボジャまで生息している。広島近郊でも近年急速にその数が増しており、最近では緑化センターの池にまで入ってくるようになった。

体が大きいアオサギは、営巣中の卵やヒナがカラスに狙われる外は天敵も少なく、成鳥が犠牲になることは少なく、動作は遅いが、人気を感じると早々と飛び去る習性がある。

夜間の移動も多く、「キャッ」と高い声で鳴きながら飛行することが多い。地上での声は「ゴアー」と聞こえる。

鳥名由来辞典によると、アオサギの語源は背の灰青色からきたもので、明治時代の鳥類目録には「アオサギ」と「ミトサギ（美止佐木）」を併記するものもあったが、やがて「アオサギ」に統一されたとある。

文と写真 吉見 良一氏

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス